

## 極端な気象、中秋の名月、東京オリンピック、在宅医療への危惧(2013.9.1)

暑かった夏より秋になり、朝晩の冷えはかなり強いものですね。あっという間に雪の季節になってしまうのかなと、恐れております。

極端な異常気象が多かったこの夏、来るべき冬は`今までに無い豪雪` などという記事にならないことを祈っております。

先月19日は、中秋の名月でした。今年は、十五夜と満月が一致したとのことで、本当に真ん丸なお月様が雲の影響を受けずに、凜として輝いておりました。

このあと同じような条件になるのは8年後だそうです。

不思議な現象というのでしょうか？

二回目になる東京オリンピック開催が7年後の2020年に決まりました。折角の一大イベントですので、体調を整えて日本選手団の活躍を拝見したいと思っております。

皆さんも是非とも実現出来るように気を使って毎日をお過ごし下さい。

少子高齢化によって、高齢者の割合がかなり高くなり、有病者でも医療機関では扱いきれない状態になって来るので、多くの高齢有病者は自宅で治療管理を受けましょうというのが、在宅医療の拡大実施であり、正にその方向に向かわねばならない現実問題なのです。

しかし、高齢者の有病者では、日中と云えども一人での生活は困難ですので、誰かが介助や介護の為に付き添いしなくてはならないということが新たに出てくるわけです。

お年寄りのご夫婦だけの世帯や、場合によっては独居生活の高齢者では、その後の生活が崩壊してしまうことも考えねばならないでしょう。

訪問看護や診療体制が出来ている地域であればそれでも何とかなるかもしれませんが、その様な体制の出来ていない地域では、早急に対策を立てなければなりません。

生活弱者と言われる方々が、額に皺を寄せること無く、笑顔で毎日を過ごせるようにみんなで力を合わせましょう。

こ